



家仲藝師圖志

二

~ 13  
3380  
2





門 へ 13  
號 3380  
卷 2

義仲勲功圖會前編卷之二

目錄

為義贈初衣鎧義朝并教訓日圖

新院方敗軍義朝誅及

信西入道義朝の願を拒圖

崇徳院於松山配所崩御

大乘經書寫り圖

信頼義朝乱逆殺信西入道

清盛父子熊野より京師へ弛上圖

大正十年八月九日  
本大學出版部 贈

勲功圖會前編卷之二 目錄



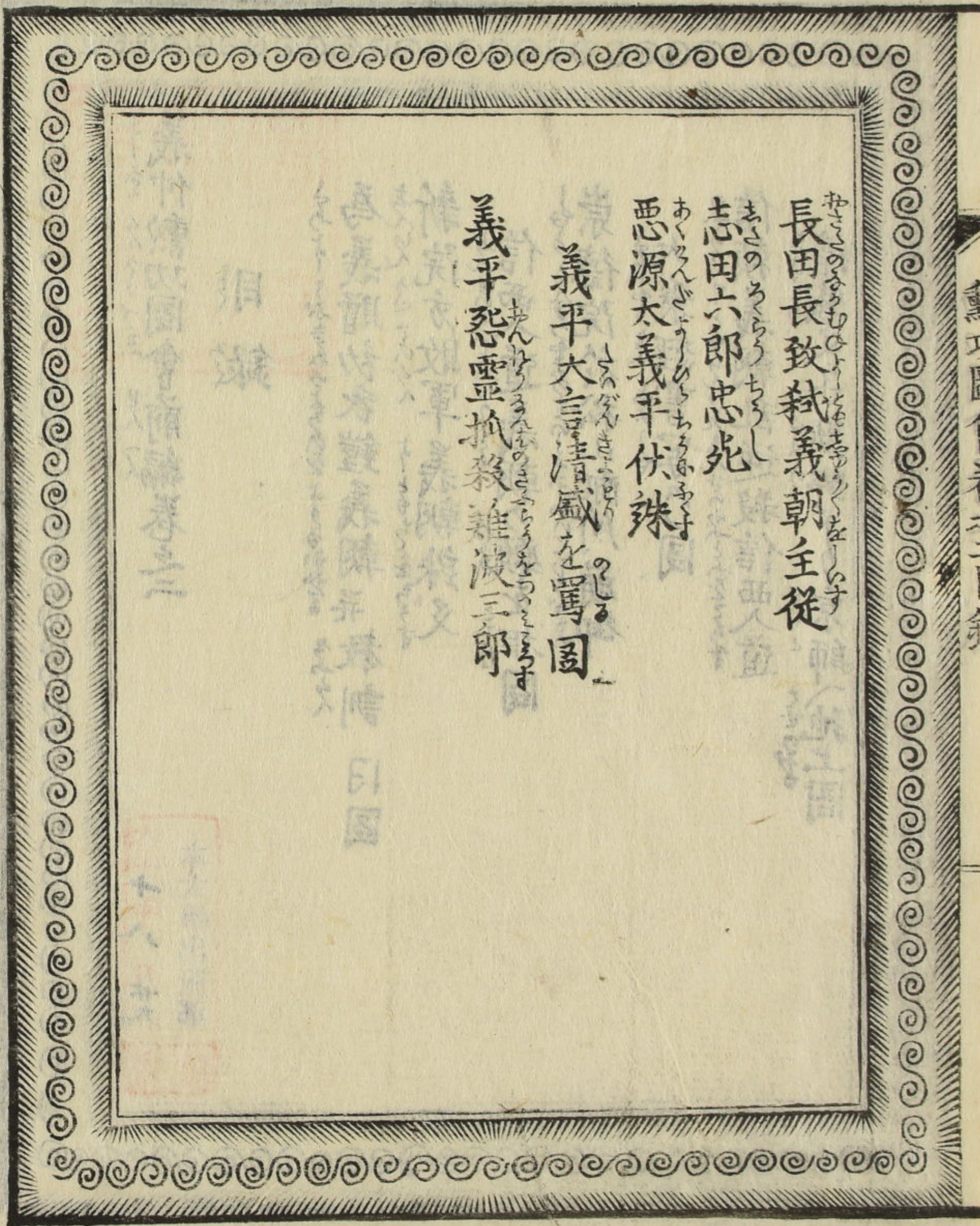
長田長致弒義朝主從

志田六郎忠死

悪源太義平伏殊

義平大言清盛を罵固

義平怨靈執殺難波三郎



木曾義仲勲功圖會前編卷之二

為義贈鑑義朝并教訓條

浪速

山珪士信考訂

六條廷尉為義と老煉乃人なれど深くなりハ事ありと内裏より度々  
 召ささる所勞と中偽りて辞退し新院乃御招死おも應ぜざり小  
 院使権頭実清が智弁小説付られ止事を不得院参一速小大將軍乃職  
 を辞退せんものと思惟一々々其刃乃端をも護せざる以前おまりハも寄  
 せと二ヶ乃莊を賜り上北面の思命を蒙り割ハ鴉丸の宝劍を下されし  
 心兼ての思安相違し今更御辞退中上乙より心かろうと新院  
 乃御味方小屬一々々借時勢を考ふる小此度乃合戦新院乃御利運子  
 小つも有下し思れど去る夜乃夢乃トといは是彼おりの廻せと我身  
 乃宿運茲小盡命死時節至来せざるも覚期し暗小即黨小命トく  
 重代の體乃經産衣としるが持せし内裏乃御味方小参りてあま子息

勲功圖會前二

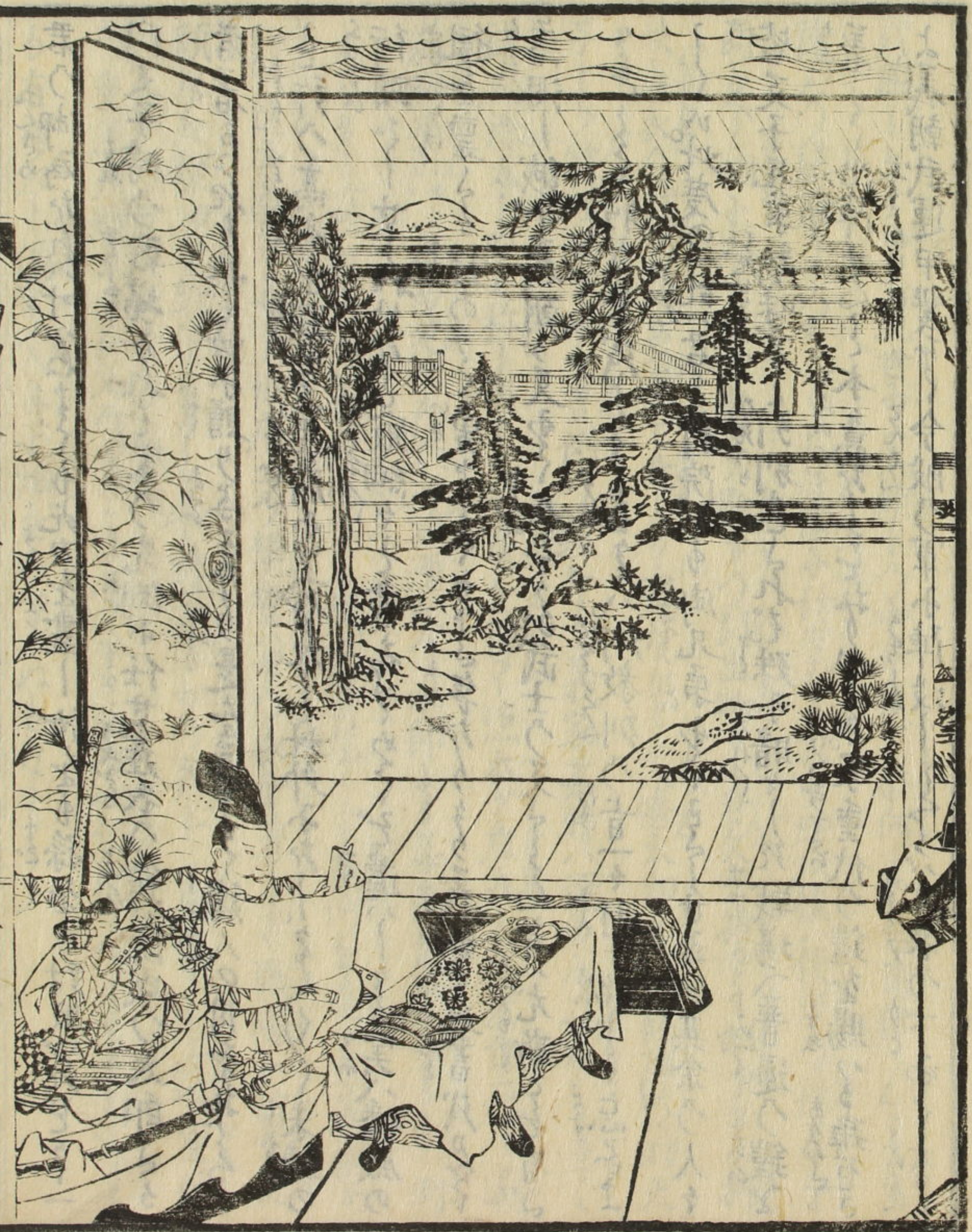


下野守義朝の許遣一且文成り今般新院不慮の御企あり世の中  
 の騒だ出来ぬ奈は皆女院信西か奸悪より起りしゆも新院子より道  
 を守りおとせ仙洞登霞の程もやうまさぬ小根小干才を動かす天  
 理の合せむと人望も背たせりされど万が一ツの御勝利有登りしゆ  
 おもれど為義天眼通ハ得られども願トも其勝敗を察するがゆ敷度の  
 御招たを固く辞すもやうお重た院命を居かぐ御答トよると非礼也  
 一の織より承向の上辞退せしや、と浅くおのちひりり白河殿にお  
 下りし小院小の謀致させぬや我院泰とると其や厚た  
 院命かゝひ小伊庭寺柳ニテの莊を賜り上北面より一の院宣の上  
 丸の靈劍をしも下賜りぬ是我御辞退トと道を断ぬ御謀小く  
 為義か身小しりり二テの莊も名劍も身を亡ふぬた察する物を家の  
 譽よ身乃面目よりと羨すれぬもあはれなし。遮莫是も定ゆる業小や

去ぬる夜の夢小重代つ鎧太刀旋風小八方散乱一行傍なくありと見  
 たりゆ身乃亡ふぬた前表かゝるまを維をう恨と維をう処むじ死原未  
 義小依り捨る命の毫毛トりも狂しと前より身乃かゝひりり若く杜  
 かる人小おさかり一かろりのをやりてや我七旬小余り老の身乃無道小  
 もあき院の御頼小慮ト戰場小臨と討死せんと武士の本意わく徒わ  
 褥の上あゝ病死とせしと一ハ遙小勝り葉さく稀かろ老木揺も再び花  
 咲心地とともとせしと一旦義小引も思愛の又子兄弟思はさる小敵々乃  
 色を頭一鍬を磨た鏢を削ると浅猿々もトヤ是も世の不肖武士  
 身小跡した例ゆあうどと弓矢とる身と名とを惜み新院方小又  
 もあり難もありあんど言甲斐か死吏を思はと只君忠乃為を重んト又か  
 生首とろく二心か死賊を頭せしとろく私乃思義をかり見遁しとろく  
 他人小討せかむ七生疎盡未承とと勘當とと。我のさる頼られもやう

幼刀圖會前二





為義子息  
 義朝  
 産衣の鎧を  
 贈り図





君の御為かれは叶わぬまじも死力を盡し汝をも孫をも討取べんぞと一  
 門又子暗の戦場をれむ家乃先例小任せ産衣の鎧源氏の太郎と  
 者着るべんをれむ汝も贈り与るなり是を著しと諸人の目をせらる  
 と許の高名を顕せよ生前のふをせし此外小なりとくくく未煉の  
 行跡をせしれいなく寂細々と書きたるやと遣はりたる実八幡殿の  
 福を蒙る程ありと勇ましくゆさる事なりきり義朝も此書成りて  
 落洞し緘小義朝が又中在とふ武士の又ととと者ハ尤斯と有  
 々々々々躬も筆成りて書きたる御教訓の旨一々肝銘と忘ふま  
 しく此度の一乱ハ君と新院とも御兄弟ゆきとせしひ其余の人々  
 皆又子兄弟敵味方と引別せしれも殊小暗々ハ戦場へ普通の鎧を  
 著しと出陣せしと本意なきをかりし家重代ハ鎧を賜る難有さ  
 よ義朝武運甲斐なく今般の軍小陣没しとと九泉の下あり大恩

謝しなる也。現世あく敵々の中なれを糸向し思謝仕くこと  
 諸人の儀論うろろいふ意小任せと又あも此以後ハ使者乃往反と  
 断しと相小あせめ使者小數多引出物とせ文を持せと飯と抑  
 此産衣の鎧とつふ原七竜との鎧かりしハ幡太郎義家初陣の時天  
 子より被け被下る吉例の鎧なり義家其時ハ源家の嫡男とせむ  
 緒人源太どのと称し小より七竜を改て源太が産衣と名成付ぬが  
 嘉例芽出とれ戎衣なれむ代々源氏の太郎と者是を著しと例  
 となきり此故小為義敵味方と隔る中なかりも先例を違へど義朝が  
 許へ送まふかたぐり彼唐土の樊會母乃衣を著しと戰場小臨と比  
 類なれ勲功を顕はりたる也。綿なる女乃衣と斯のし況や重代  
 の重宝成贈りしあ又の意なき受しと子乃心何許と嬉しくゆふ  
 由有なれと傳へて人毎小細をあらぬとをなかりきり



新院方敗軍義朝誅文條

却鏡内裡方ハ新院御謀叛の御催一明白なれむ。左大将公教卿藤室  
 相光頼公古院の御遺誠を。八条馬九なる美福門院の御絆より下  
 拜見ある。小の御兵乱を知召る。種々の御遺誠の上内裡へ  
 召る。召れ武士の名を記し置せ。其輩ハ下野守義朝陸奥判官義  
 安安藝判官基盛周防判官季實徳岐判官維繁平判官実俊新之藤判  
 官助經亦あり。茲ハ安藝守清盛ハ平氏の棟梁として一門類葉も多し勝  
 智勇鋭く。殊小安藝守清盛の者なれ。第一小紀一丸也。其義朝  
 新院の三宮重仁親王ハ故刑部卿忠盛の難君也。其子也。清盛と  
 御礼人子也。御心を合せ。御遺誠小池一丸也。と見え。されども女院  
 ハ奸智逞し。死人なれむ。烈卿小向ハ。やう。うら世の乱ハ。兵一人と  
 味の味方小得。ま。清盛の武士を。御遺誠小紀一丸也。と見え。

新院の御味方させ。ハ禍の基なり。只清盛也。御遺誠の第一小紀一丸也。と  
 偽り。招れ。新院方ハ御頼を。清盛ハ。一番小池。参り。と  
 油断。在ん。と必定なり。其間。此方より。随分。頼。彼人味  
 方。参る。と。人々。実。右。方。を。使。て。清  
 盛を招れ。此時。安藝守清盛。白河殿。御謀叛。色。表。し。と。故  
 已。新院方。馳。参。り。其。心。構。る。所。勅。使。右。女。弁。維。方。入。来。あり。故  
 院の御遺誠の旨を傳へ。他。内。裏。の。御。方。小。御。頼。有。と。嘯。言。し。  
 々。清盛大。小。心。迷。ひ。奈。何。せ。と。猶。豫。を。子。息。重。盛。大。の。小。練。め。り。曰  
 支。無。道。を。捨。て。右。道。小。就。こ。人。倫。の。道。也。新院御心。な。り。と。室。位  
 也。只。天命。の。飯。せ。り。覚。り。む。と。仙。洞。崩。御。せ。し。御。棺。も。乾  
 ざ。り。無。名。の。軍。を。好。む。と。天。理。小。合。せ。む。と。勝。敗。ハ。軍。門。の。習。ひ



預しち定ぐるといふも。十ふくハツ御利運有也。其ハ左ノ右ノ新  
 院より一度御招の御使もきつと。内裡より故院の御遺勅と有る斯  
 悃の勅使を賜ると。家名の美因何事と是も過いづれ。急死御請を片  
 時も早く内裡へ馳参ト云くと。練々多小より。清盛実もとく勅使し領掌  
 仕る旨をやく及。火急小舎弟子息を引昇り内裏へと馳参リ多。噫呼  
 此時清盛新院の御方小参る家名忽ち断絶と云はれ。重盛の風練小依  
 り却る。豐昌の基を固たぬ。又有華子身不陷於不羶と云はる事成や  
 り。方るべし。斯く内裏方小清盛一族を率具し。参候し。大少勇  
 脱びぬ。処在京の武士追々小参り。其勢雲霞の如く。公卿小閑白忠通公  
 内大臣実能々左衛門督基実々伏見源中将師仲をとりめ。多々馳参ト軍  
 議區々々。其騒動大方なると。此時。白河殿小も軍議有る。為義  
 が八男鎌西八郎為朝。若冠か。身の丈七尺許。少く力萬人小勝れ。

も奇才逞しく。胸小吳子孫子が秘決を時へ弓五人張の強弓を嘗百歩小  
 抑の葉を射し。艱由が術を猶拙し。とる許の射人少く。実小萬丈不當  
 の勇将なれ。躬席を進み出ると。今夜高松殿へ夜討をくけ。三方より火  
 をくけ。攻立。至上を虜おたり。一挙ふく。天下を定めぬ。と。手  
 漢の例を引理を盡し。述べ。新院方御運の傾く。前兆小や。宇治  
 左府頼長公為朝の意見を聞召仰々。御辺の論も一應理ある。小似  
 き。も。それハ百騎二百騎の私軍小をよめ。流石。至上上皇の御國争い  
 小。源平藤橘の諸勢敷を竭し。双方の御味方とれ。救ふ夜討をくけ。却  
 り。勅度の軍小不覺をとり。ハ大事なり。南都の衆徒をとり。諸方味  
 方。明日の著到と云ふれ。丈夫等を待合せ。明日。初度乃矢合と云ふれ。為  
 朝の意見小徒ひ。空しく。其夜。軍議小時を移され。処却り。内裏  
 方。大將下野守義朝。安藝守清盛。二年小分。夜討小押寄。関を唾し



上へく。新院方大い仰天。されむを為朝の未前を察し、練中されむ  
 かのを。宇治殿の更へ玉ふ敵先を強られむ。周障狼狽大方ありす  
 太刀よりと闕きね。左府頼長公も今更後悔あり。為朝が心を省人と俄に  
 除目行ひき。為朝を藏人任じたり。仰あれども。為朝ハ嘲哂ハ敵早寄来  
 つ。小諸方手配せられむ。俄に除目こそ可笑き。思將を上り立  
 く軍小勝べ利ありとや。心中ハ瓜彈。耳小掛む。戰場小弛向ハ先一番小  
 安藝守清盛が勢を射ちり。二番小兄義朝が勢を射退る。其弓勢の厲  
 し。一瞥る小物を。二箭小二人三人宛射付られむ。三軍鬼神の  
 小怖あり。義朝思慮を固し。白河御所ハ風上藤中納言家成々  
 の館小火を掛し。其火御所小燃移リ。新院方終小防く使  
 かり物敗軍となり。君ハ北白川より如意山へ落し。左府頼長公路次  
 小く流矢小中り亡む。軍勢ハ己が多く落失り。其中小廷尉為

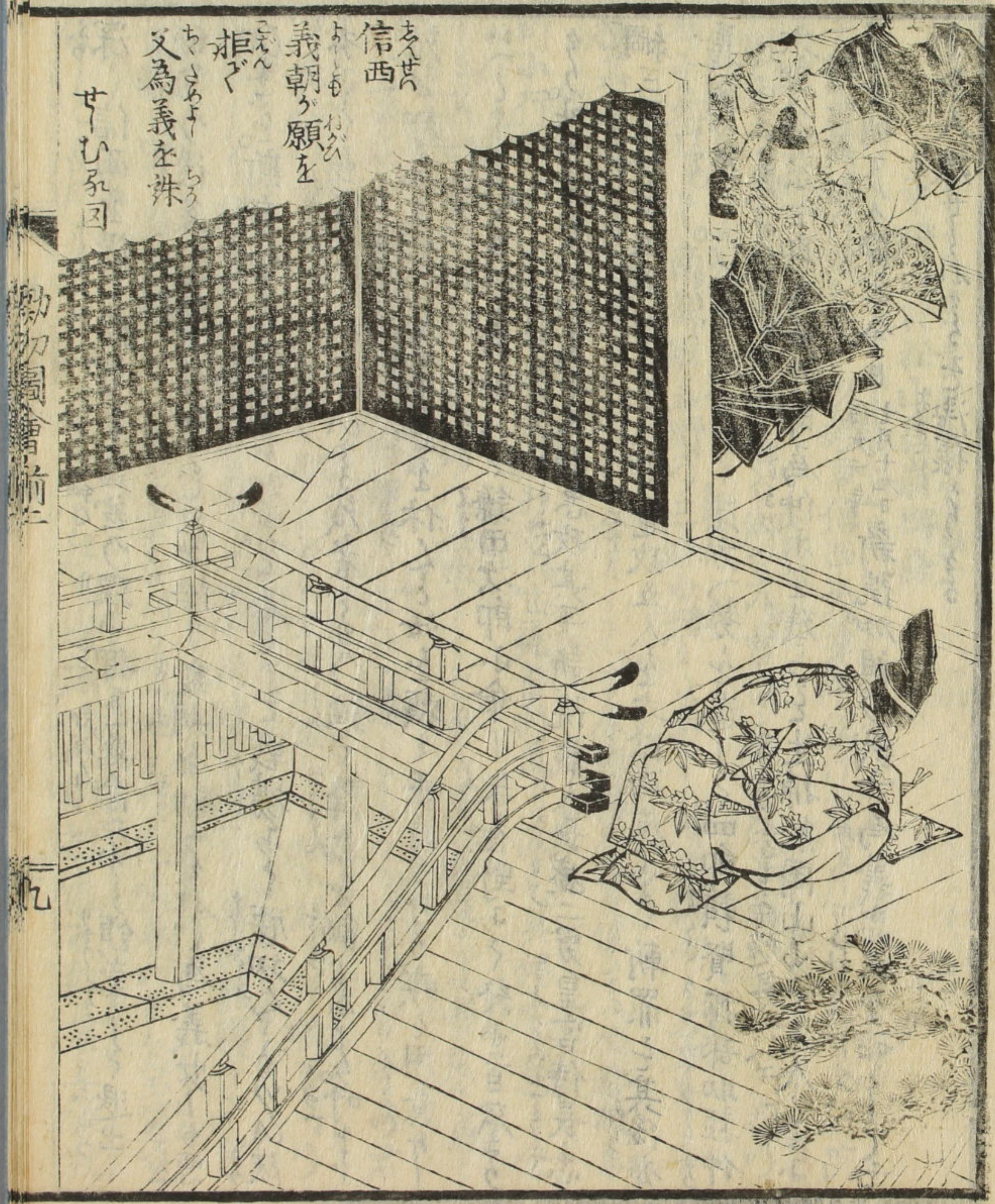
義ハ始より此合戦利有りと智覺せ。六戰場を不去討死せんとせ。茂子  
 息即徒喜。種々小練り。新院已小三井寺瓜。落さむ  
 へ。再度諸國の勢を招れ御合戦あり。必定なり。これ道ハ耻を去る。存  
 命。強く坂本。落延寺院小隠。世の動靜を中合と。院と  
 如意山中。御落飾あり。左府ハ流矢の為小亡命せられ。の事なれ。今と  
 維茂頼。存命。為義已小自害せんとせられ。又推止。且  
 東國下り。右も謀を廻。是より又子七人別々小落行。為  
 義忽ち重病を受。行歩心小任せ。方なく。睿岳の西塔。出家。縁  
 小連。義朝の許。降人小出られ。是を傳。清盛が叔父平馬助忠政も  
 浄土谷小隠。為義降人小出。上へ。子息西人を相伴。姪の清盛小  
 就く降人小出。清盛此度ハ一乱小付。信心中小思惟。我重盛が  
 練言小依。内裡方。既小軍ハ義朝小仕。勤切を奪れ。り



されども渠が又兄弟敵々となり。已お為義降人お出る上ハ我一針を施し渠が  
 又を討せ猶も緒方へ落失く源氏の類葉を尋ひ出しく悉く誅す。義  
 朝を孤獨となり。遂に義朝を由亡く平家一統の世となり。深た謀針  
 を案し出し。我妹智し。小納言信西と密終し。叔内表へ参向し。奏し  
 今般新院緞方に小隠謀を思ひせしむ。御味方仕る武士なくん  
 ば其事成す。いと小源庭尉為義を。其が叔父平馬助忠政亦弛希り  
 御加祖を。ちより。自余の武士も院の御味方希り由。大  
 事を引出し。其。叛逆の名。院小蒙し。せしむ。罪ハ如唇の武士小  
 ことい。其。伯叔忠政愚息四人と俱に降人お出ひぬ。其。内縁  
 の私を。朝敵の大罪を。看む。何卒叔父忠政又子五人某  
 小殊戮を仰付ら。と。願ひ。某。正忠お似。原。清盛忠  
 政。日。来。不和。中。の。已。叔。父。を。斬。罪。を。義。朝。も。又。を。助。す。道

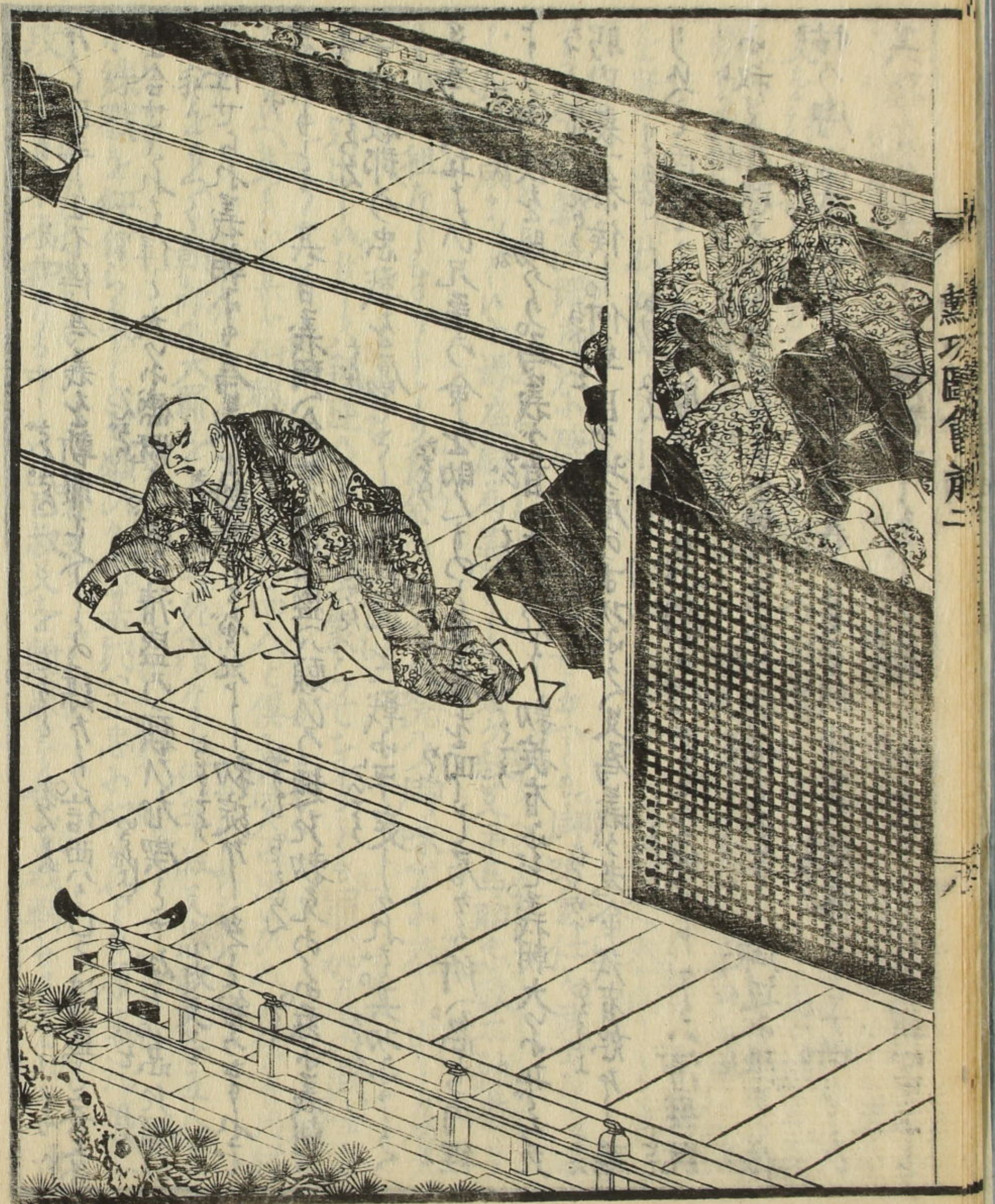
か。已。事。を。不。得。為。義。を。斬。罪。と。下。の。謀。かり。信。西。ハ。清。盛。と。密。意  
 を。合。せ。し。儀。と。大。の。感。慨。緘。清。盛。の。願。ひ。を。決。し。急。に。願。ひ  
 小。任。せ。られ。義。朝。も。為。義。を。斬。罪。と。命。せ。し。御。旋。が。一。と。奮。め。られ。い  
 君。実。も。其。昔。義。朝。命。せ。し。清。盛。ハ。願。ひ。の。趣。に。勅。免。ある。茲。に。義。朝。ハ  
 今。般。抜。郡。の。忠。戦。を。屬。と。す。の。乱。逆。を。一。戦。に。平。定。し。其。功。小。す。く  
 又。為。義。お。し。兄。弟。の。命。を。助。し。の。思。慮。を。聞。し。居。る。所。へ。忽。ち。内。裡  
 より。御。使。を。賜。り。為。義。が。首。を。削。げ。し。勅。拔。有。ゆ。と。義。朝。大。に。お。ぼ。ろ。死  
 躬。内。表。へ。参。候。し。何。卒。臣。が。以。度。の。功。小。く。又。為。義。が。老。命。を。宥。め。給。り。賜  
 り。い。と。兩。度。と。多。く。歎。死。願。し。り。小。納。言。信。西。是。を。遮。り。や。つ。つ。ハ。清。盛。既  
 小。叔。父。忠。政。又。子。を。誅。せ。し。を。願。ひ。出。ぬ。伯。叔。猶。又。小。等。し。御。辺。に。限。り。依  
 怙。の。御。沙。汰。有。へ。し。只。速。に。為。義。の。首。を。削。諸。方。へ。拔。落。せ。し。子。供。に。依  
 其。孫。を。尋。出。し。誅。戮。せ。し。と。嚴。し。令。を。下。し。義。朝。中。小。と





勅切圖會前二

九



勅切圖會前二

九



深く信西を恨み悪む。當然り理小押を無念か。領掌も退出し  
 飯宅の後又小宣旨のありむを繕り寂期を勤められむ。為義少も悪  
 ひまど斯有んる。成る。知覚しれむ。戰場あり腹切し。ものひ  
 本めくも自害せん。ひまど成者。強く降参を勤め。疾々用意  
 知るか。少。渠ホ心を休ん。汝を頼り来はる。疾々用意  
 山へ。中。され。義朝。鎌田次郎小命。朱雀野。終小首。成る  
 多。此日清盛も叔父平馬助忠政其子新院藏人長盛二男皇宮侍長忠  
 綱三男勾當正綱四男平九郎通政五人を六條川原。斬罪。其後亦  
 義朝。重。宣下。小。方。勢。遣。四郎頼賢掃部助頼仲  
 六郎為宗七郎為成九郎為仲ホを残り。生捕船岡山。五人。小  
 首を。都。今日。保元元年七月十九日。新院加祖。武士為義忠正を始。て七  
 十余人。殊。せ。れ。る。と。淺。様。り。る。

崇徳院於松山莊崩御條

去程小美福門院并小女納言信西ホ。多年傾け。と。あり。新院  
 一戦小ホ。負。御。室。の。宮。の。せ。む。左。府。頼。長。公。矢。疵。の  
 為。小。死。亡。南。都。般。着。野。の。三。昧。小。埋。と。る。あ。り。成。少。悦。ぶ。と。大。方。を。子  
 猶。其。虚。実。を。糾。せ。よ。と。信。西。令。と。中。原。師。信。を。官。使。し。南。都。般。着  
 野。小。行。向。ひ。左。府。の。基。を。掘。あ。を。せ。屍。を。引。出。改。其。終。小。ホ。給。と。せ  
 多。其。奸。毒。の。深。た。と。瓜。緒。人。淺。吐。と。と。悪。と。多。其。後。や。帝。成。感  
 御。室。小。在。と。新。院。を。讃。岐。國。松。山。の。莊。に。ど。流。し。も。り。多。悼。し。い。ら。ふ。の。君  
 御。在。位。乃。昔。と。天。の。省。せ。る。聖。主。と。上。天。小。法。り。下。地。小。則。り。万。機。百。司。の  
 政。正。三。綱。五。常。の。道。明。を。れ。五。風。十。雨。時。を。違。と。萬。民。鼓。腹。一。業  
 を。樂。と。四。海。波。靜。と。君。臣。衆。を。同。く。地。主。の。花。咲。春。の。日。を。室。輩。と  
 促。し。長。用。日。蔭。小。御。宴。を。啓。と。御。詠。吟。の。御。遊。濃。小。紅。葉。且。散。秋







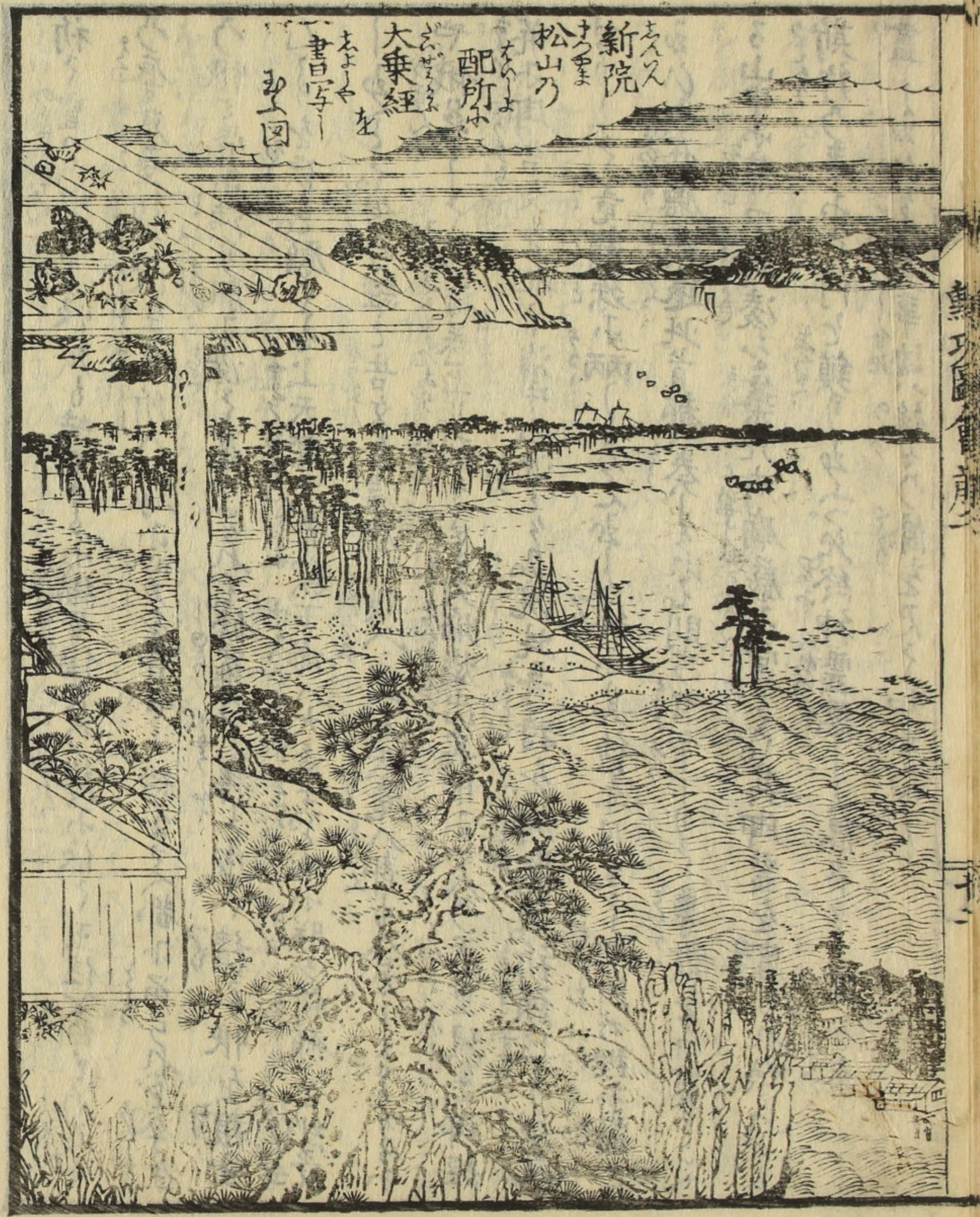
リ友し假令手跡しりも都近辺ふと叶ハざる昔下させむ。御室の宮も  
 カカク。其首を御父不怒られ御經小添く松山(返させ)入新院其御父  
 を御覽し忿ち瞑まら御眸逆小裂奉取握く都の方を睨はらむ。焔  
 の如た息を吐く宜く。朕適身乃不徳を省懺悔滅罪乃為小ゆし心魂を凝  
 し書寫せし經をも猶呪咀の邪文し。都乃近辺ふも置し。亡是皆女  
 院信西ホが飽ま。朕を辱むるなりをも如何かれを棄ホ斯ま。朕小はく死  
 ぶや。此上ハ今臣乃道心を翻し三惡道不墜落し。大亡王と成り當今を  
 とも。朕小雜面一女院信西又ハ大哉清盛其外憎し。母上族小同小物か。今一  
 と罵りむ。御声も早猛々し。是より朝暮乃供御を断せむ。一七日間御身  
 を清め御指を裂く血泣を絞り。大乘經の奥の兼子に法を以て脚製  
 濱千鳥あ。々都小くく。身ハ松山乃ねふ乃。ご。ご。ご。  
 して脚歌を血書し。あ。の。別。小。ま。御血泣を。ら。一紙の告文を。推し。天地小

初々宣つ。朕何の恨れも結むるも。繼母倭臣乃。誘ふ依く。王位と削られ。度々  
 の辱み受刺。後生善所乃。為小心力を盡せし。經をま。都小。苗。れ。今。生  
 の恨も骨小。凍り肌小。凍く忍が。る。修羅乃。上將と成り。積り。恨を報せ  
 ころを。欲し。願く。上天梵天帝釈下海。八大竜玉。も小。朕が。祈願を。納受  
 し。あ。く。件乃。經と。告文を。海底。投入。小。天竜八部。も。合。力。し。ま。り。ま。る。小  
 や。俄。然。と。浪。逆。卷。上。り。烈。々。と。大。焰。燃。出。其。中。小。一。人。乃。天。童。現。現。し。脚。經  
 并小。御。告。文。を。把。り。海。中。小。沈。ま。り。院。此。奇。特。を。御。覽。し。祈。願。已。り。成。就  
 せり。と。竜。顔。殊。小。兩。く。見。え。む。終。小。其。後。年。月。を。配。所。の。裡。小。崩。を  
 む。い。ぬ。在。廳。高。遠。此。皆。都。奏。し。則。ち。官。命。下。り。尊。嚴。を。白。峯。と。し  
 る。山。中。小。葬。り。脚。凌。を。築。九。脚。廟。嚴。小。宮。と。其。脚。靈。を。宥。り。れ。ぬ。お。れ。の  
 斯。行。乃。事。小。何。と。鎮。り。あ。つ。死。終。神。靈。惡。し。思。召。々。草。を。悉。く。し  
 盡。し。む。い。々。其。事。迹。ハ。後。々。乃。條。を。入。く。知。む。べ。し。





力刀圖會前二



去久  
新院  
松山乃  
配所  
大乘經  
書寫  
去久  
去久  
去久

真巧圖會前



信賴義朝乱逆殺信西條

光陰乃疾たて奔前乃づく流水小似る保元も早三年とかりたるふ其年  
 の八月十日後白河院御位たてせむひ皇子守仁親王小天下を譲らせむ  
 是を後小二條院と申せり然るも續岐院の御崇小や洛中も怪異の  
 事多し且又由々一兵乱出来りたり其乱根を尋るふ其頃権中納言兼  
 中宮権大夫右衛門督藤原信賴とり人あり祖先天津見屋根尊の苗  
 裔中関白道隆公より八代乃後胤播磨三位季隆乃孫伊豫三位中隆子  
 乃生得文小も疎く武小も疎けれども縮狭と人小勝き口管君前小侯  
 阿利波ひは頻小朝息を得る近衛司藏人頭后官官司宰相中  
 將清府督檢非違使別當たんとり後階を繰二三々年小經昇り中納言  
 右衛門督小至まり一乃人の家嫡たてと申す乃昇進あき凡人小くも  
 例とあむあむと然も若干乃所領を賜り榮耀心乃停かり然れども

猶貪り飽て成るを家小絶く久し大官の大將を望まき上皇乃御意  
 小も任せむとて此事を小納言信西小向め来入の智才富貴を妬む信  
 西日來信賴が君の恩寵を得無能小く官位昇進せしを腹黒小かりひ  
 居たる室中ゆへ大の事たれり体ゆやくるも是ハ其のゆへ倫言哉  
 人こそ多た小信賴かど大將小なりむと雖も大將を望まざらん抑近  
 衛大將ハ睿智俊才の人を擇ぶことを授けし重職ゆへ頑愚短才の  
 信賴かど此職を汚さし弥奢程驕慢増長し果て君を軽んじ叛逆かんと  
 成企世成乱しゆ漢乃董卓が例をす慮らむとて散々小信賴かどを  
 誹謗し諫拒をれを上皇も理も思召さし信賴が願を其小置せむひ  
 たり然るも此事信賴が耳小入る躍上つて大の怒りやれ愚死信西道  
 が後言うか我望を中妨るまある小我を頑愚短才とさし逆臣董卓小比  
 一々ることを安うね續岐院乃尤迂もひも原六渠々諂奏より事幾まり尤







某も彼賊法師が毒舌の為小又かひ一族を多く亡しひい恨骨髓小  
 漢りく忘る。天晴調略を回されい。義朝御助力仕の極しとトされ。信頼  
 喜悅も不堪夷物造の太刀腰奥列駒の太く逞たを二足鏡鞍もたれ義  
 朝小与へり。是より西人日々会し高議し其虚を窺ふ。大賊清盛  
 祈願の義有る熊野(赤緒)も多し。信頼義朝究竟の時節至未せり  
 俄小軍勢を揃(平治元年)十二月九日の夜子の射先三條殿(押  
 寄)上皇を虜小し。御所小人をけく焼立日の子の射先小信西が宿  
 所姉小路西洞院(押寄)是も火をけ家中の男女悉く切殺しぬ。然るに信西  
 法師と天文易術小達しを。其前後持仁堂小在る經を續誦し居る  
 小香乃火秘る經文乃文字二行焼し。是凡事をくむ。庭前より出  
 天文を仰せり。兵革幾り我身小災害おふ。是兆頭出たれ。大  
 小小死。翌九日の朝南方(落行)が。其夜都乃方小あり。火光幾り

これた。されとも妻妻起り。右衛門尉成景とい者京都返り。見  
 せむる。成景夜の明方小起馬小鞭を加へ地歸り。大息吐く。信頼  
 義朝逆意を企院乃御所三條殿を初。西洞院乃御宿所をも焼し。い  
 ゆく告る。信西大い孩死手乃舞足の踏をま。余り小隠り。田原の  
 真小く土中を深く掘潜し隠る。天命道を。遂小出雲守司光安  
 小搜し出され。首成刻られ。因果糾る繩乃。信西前小宇治左府  
 乃墓を掘行。報ひ勿し。其身も土中小隠しを掘出され。斬  
 斬せ。不測たり。斯く信頼義朝小依小動止。當今小押て大  
 臣乃大将を兼義朝と播大國を賜る。播大守小あり。其餘の徒も小  
 應し。官位昇進し。是皆君乃睿慮より出る。時乃勢ひ已事  
 成得。中望。小免させ。出る小義朝乃嫡子悪源大義。平  
 東國三浦助が行小在る。都小軍有と。取物も。地土り。小









清盛 きよむね  
 重盛 おもむね  
 都の要 みやこのもと  
 北の熊野 きたのくまの  
 飛馬 とば  
 馳上 かせる  
 図

新編  
 源氏物語  
 前二



頼盛常陸助教盛三百騎ゆく土御門東洞院に待請なり事なく六波羅  
 へ御車を入りたり。後白河法王の一品御書所小押籠られ御座るは右  
 少舟成頼潛小参り至上巳小六波羅へ御幸なりたり。大子  
 平らうをせし人、仁和寺へ忍び行りて是も殿上人の跡小御を拾し御  
 馬小召し僅小成頼一人を御從臣とて深夜小御書所を忍び出ぬ折も  
 降ちたる雪を凌駕終小仁和寺へ行幸なりたり。清盛も至上巳小我六波羅  
 へ御幸なりたり。家乃繁昌此時かりと悦び諸方へ人を馳せ王上にて  
 小我六波羅へ御幸なりて朝敵とて小一輩、馳参りて守護したり  
 一と觸渡りたる関白殿左右の大臣とて月卿雲客一人も内裏小侍とて  
 皆六波羅へ馳参りたる是を乃今迄内裡方とて諸國の軍勢も抜々  
 小六波羅方へ馳参りたる茲小兵庫頭頼政義朝と八親、親族も内裏に  
 小在りたる王上六波羅へ御幸なりとて一家の好私事なり。假小君り

向ひ弓を響くと其恐ありとて是も手づ者を引卒しと六波羅へ馳  
 参りたる清盛大小悦び御返ハ九典廐の義朝と八親、一門なるも君忠の爲  
 小引別とて参りたる奇特なれとて殊小賞罷せしむ。斯うとて六  
 波羅方へ追々小軍勢加りて雲霞段のく内裏方只信頼が勢と義朝が  
 一族の勢のなれを逆も叶登りとハハと参りたり。されとも義朝も一期  
 たる事なれを些とも憤せと備を固く待処小程なく平軍待賢郁芳兩  
 門へ押寄合戦おろし義朝の嫡子悪源太義平は十九才の若武者ふか  
 ら勇ハ叔父鎮西八郎小も劣ざる剛持ゆ何卒重盛を討取んと群敵  
 を切散しと三度まぐ追出。重盛小二度寄合せ討んとすれども重盛  
 運強く落延たり。悪源太是を怒り是北討函人と追行たり。早又義朝を固  
 せし郁芳門の軍味方利を失ひ大将信頼も又義朝の戦場を落しと  
 史。叔軍由是追たり。六波羅へ乱入し清盛重盛の内一人なりとも討取。澳



討死せしと僅五十余騎を一隊とす。六波羅に馳入千変万化し敵と討  
 し敷るるにむしつれども清盛父子小出遇む味方も残さず小討せしれ再  
 度又と力を併し旗必上りと戰場を斬抜北國へ落行多め斯く後平家  
 平公勝利を得至上を内裏へ還御せしなり法皇然も迎へ朝敵の張本  
 右衛門督信頼を大原より生捕六條河原より刑罪し猶も余黨を搜し  
 需るるに嚴く特小義朝又子を討つ擲るるに差出さず小あわく過分の賞  
 録をよみ給ふと緒列觸渡しる時小義朝を主從僅小三十騎をりあて  
 東國へ落さるる所々より野武士山法師等と小悩され陸奥六郎義隆討れ太  
 丈進朝長も膝の口を射られ行歩心小任せし有殺し兵衛佐頼朝伊吹  
 山乃凹より敵小生捕せしる義朝を僅小鷺津玄光淡谷金王丸鎌田の正  
 清三人小技られ美濃國より落延從來の家人といひ鎌田が男をねむとす  
 野間の内海を多長田在司忠致が方行く時居し小忠致忽ち大欲心を

幾し重代乃主君義朝を浴室の内より弑し現在の尊し小鎌田正清も  
 討取六波羅へ差出しる鳴呼義朝も武名を天下小真せし小逆臣乃  
 名を得非命乃死を蒙るる偏小信頼と死乃無道人小与力と聖王と  
 悩し且又為義を斬罪しる悪報とをたれり

志内六郎忠死條

却説悪源太義平六波羅の戰場を切抜越前國足羽へ下り再度又義朝  
 と會合し旗を上り都へ攻上り先敗り耻辱を雪んとみり処小又義朝を  
 長田が為小討せし日袍ととも或は討せ或は虜とたりしと又拳を握り牙  
 を咬恨気天を衝き怒り憤り今何を期とせ都へ上り清盛重盛を  
 討つ恨を晴し其後長田又子が長鬚首小切を仇を報せんと大膽不敵のみ只  
 一人足羽を立く都へ心ひ上り此所彼所小徘徊し清盛父子を狙ひる小  
 茲小義朝の即黨乃内丹波國乃任人志内六郎景任といふ者あり遙り外



様者あつて世人の知れど、の者あつたれば、義朝没落の後、身乃立任居  
 たり、依六波羅へ奉公出下様の勤をなす、居るに、洛東八坂の辺、あつ  
 たり、子義平、忠行合、仕内、まとも、知り、成、悪源太、編笠を、女  
 揚、汝、景任、なす、や、と、いふ、仕内、大、某、ら、死、急、小、同、結、先、斯、御、奉  
 あ、ま、と、く、左、右、を、中、ま、ひ、己、が、宿、所、三、條、鳥、丸、伴、ひ、と、一、回、小、結、其、身、八、逆  
 の、末、席、小、低、頭、一、々、中、ま、ひ、ザ、リ、と、す、い、ふ、義、平、公、去、ね、ふ、平、治、の、二、戦、の、後、  
 御、門、散、々、あ、つ、せ、し、或、六、射、を、或、生、捕、ま、し、源、家、二、朝、小、慶、七、一、平、家  
 一、統、の、世、と、な、り、い、無、念、骨、髓、小、徴、い、い、言、甲、斐、を、身、の、奈、何、も、と、い、ふ  
 り、能、つ、ど、所、詮、源、家、の、公、達、再、度、せ、し、出、し、ま、と、無、念、を、忍、び、平、家、小、奉  
 公、仕、す、り、在、い、然、る、小、頃、日、経、儀、を、池、邊、い、ふ、ま、ご、義、平、行、方、知、れ、れ、を、抗、を  
 高、う、仕、さ、う、天、晴、何、者、あ、つ、あ、れ、義、平、所、在、を、辨、へ、出、る、者、あ、つ、思、賞、を、  
 小、任、ま、と、と、普、く、諸、國、觸、渡、さ、る、と、い、出、る、小、君、独、身、あ、つ、洛、中、を、徘徊、す、

あり、公、新、を、負、く、焼、野、を、往、り、如、し、急、に、遠、國、へ、身、を、遁、せ、世、の、動、靜、を、窺  
 ひ、ま、と、色、如、葉、々、練、れ、義、平、呵、々、と、歩、西、い、汝、中、也、一、理、あ、り、と、い、ふ、と  
 既、小、又、長、田、毒、手、小、命、火、損、い、い、朝、長、義、隆、射、を、頼、朝、も、流、入、を、り  
 我、身、孤、独、と、な、れ、今、い、維、か、為、小、命、を、貯、め、れ、い、い、小、存、命、と、い、言、  
 甲、斐、を、死、匹、支、下、郎、の、手、ふ、く、と、縲、紲、の、辱、成、績、か、い、家、名、の、汚、き、弓、箭、を  
 瑕、瑾、を、な、ま、れ、如、何、ゆ、り、清、盛、又、子、の、内、を、射、く、ま、な、く、バ、深、く、斬、死、  
 先、考、の、跡、を、追、い、と、洋、と、都、小、上、り、り、汝、り、身、の、榮、利、成、思、い、六、波、羅  
 へ、辨、人、賞、録、を、得、よ、將、又、回、恩、を、志、心、と、昔、時、我、を、貯、り、お、た、り、本、意、と  
 違、せ、と、い、ふ、と、中、ま、ひ、小、い、仕、内、六、潜、並、と、落、洞、い、い、人、を、い、れ、某、を、い、去、ね、る、都  
 芝、門、の、戦、場、あ、つ、射、死、し、多、年、の、君、恩、を、報、い、な、ま、い、れ、小、匹、支、下、郎、の、悲  
 しみ、八、落、行、朋、輩、小、誘、れ、心、な、く、と、も、戦、場、を、遁、し、頭、の、殿、の、御、供、い、な、れ  
 現在、仇、敵、の、平、家、小、勝、を、屈、し、忝、辱、の、塵、を、被、り、い、い、天、晴、再、度、源、家、の







の嫡男悪源太義平なり。いづれも出たり。檢賞と後日小汝汰とて。即時小六波羅(まひむた若部)が辨松の條を言上し。兵卒三百余人を領し。彼弥とて。次小引路させ。二條烏丸なる仕内が方へ。ど押寄とふ。時平治二年三月、日の酉の刻むり。高張數多點し。はれ仕内が宿の八方を圍み。経遠真魁小馬を進め大音小。此家の内小鎌倉の御曹子悪源太義平の忍ひ御座し。辨人の者より。慥小氣なり。雞波次郎御迎小。上仕まり疾々御出あせられ。いと呼り。仕内六郎是をき。仰天し。是ハ何者乃辨人せ。やと周障し。か。衝々小具足小身を固めて。義平小向ひ君早く。裏口より落させ。其皆時防矢は。んと。ヤ。義平落し。示し。赤笑ひ。志ハ健氣なれ。汝が防む。何許の吏あり。義平落し。と思ふ。百万騎が圍む。も蹴散し。通し。と。拈野の草成雞拂より安し。汝と早く逃失し。身を全うせ。と。申す。手早く小具足し。石切。

ころ太刀抜挿し。躍り出雷の如た声を發し。推量の上。包ふ。及む。是こそ源の義朝が嫡子源太義平なり。経遠ハ何処小ある。首をと。日本一の高名を顯せ。この間もあ。と。妾勢の中。面も。と。割。縦横无尽。小切。其太刀風の厲し。と。電光石火の激。と。表。進。止。余人矢庭小切伏られぬ。其中小彼若部弥藤二。命を落せり。よ。死辨入。却。其身を亡。と。世の物笑と成。り。義平と猶。経遠を討し。眼を賊。飛鳥の。切。廻り。兵卒を討。と。取。い。の。と。敵経遠と。義平の。競勇小群易し。逃。廻り。を。終。討。取。得。今。是。と。垣。手。を。け。曳。と。ひ。と。屋。根。切。上。雞波を。り。多。の。士。卒。是。を。刃。其。所。よ。彼。知。と。走。回。し。先。手。並。小。懲。果。と。維。屋。根。上。り。組。通。と。者。も。なく。唯。空。矢。射。り。許。し。義平ハ棟。續。の。屋。根。を。刎。越。飛。超。夜。小。移。り。行。清。も。と。手。落。の。



かり難波二郎大つ小望を失ひ惆果あがり。防室前射く在り仕内六郎を  
 衛ふ生捕り引させせとて六波羅へ三飯り斯と言上り重ての下知を  
 侍清盛立出り経遠が言を更席を拍り大つ小怒り。汝多勢を引率して  
 只一人の義平を討せしむと不覚多き急た八方へ勢を指向自他も義平  
 を生捕り生首把りまされよと殿へ金づれを。経遠大つ小恐入再度  
 兵卒を手配し。東へ栗田日岡西へ桂川丹波路北へ大原鞍馬南へ淀八幡宇治  
 木幡其外八方へ征兵をさし向尋り搜させせられも絶く行傍を知らりたり。扱  
 清盛六波羅廳へ立出彼仕内六郎を白破へ引出させ喘と白眼がやされたり  
 已當家の恩録を喰やう。義平以匿居りハ予小仇せん下心を。是獅子心  
 中の毒虫小等た國賊かれが車裂小とてあつ飽くぬ奴かれどもと一  
 且乃非を改め義平が隠家を明白小やさば罪科を免し以前のつく扶知  
 遣りける命惜と包やと白状せよとあつ景住此の臆せと答るるは是ハ

仰くも竟む。義平御曹子其が為小二代御傳乃王君より争う葦置な  
 らざらん。某當家小賤た奉公仕るも源家世小出む乙とて足休なり。平  
 家乃郎堂と一旦主小別とてハ再度責がなつる知ひも源氏乃  
 食録を喰ひし者ハ某がて死下郎やとも命あつん限り心を妻むる所  
 存念毫もひつと。今暫く事露頭せむとて。某手引り御身乃首とバ  
 主君小討せむとてものを微運小く露りハ天也命也無益の刻を費さ  
 せ乙より疾引出し誅しむとて刻を放てどく。清盛大つ小怒激し已匹  
 夫の今際をも省む。我面前も睥らむと死を寃く非礼を吐くと奇怪な  
 是此上骨を挫でも白状させよと敦圍下更命し獄下し昼夜と今  
 小と水大の呵責をり。義平が行傍を責問せられも仕内一言も非發せ  
 と遂小獄申小死しりたり。是を見聞人涙を流し惜る景住其身源家  
 小仕へれも碌々し小身なる小回恩を忘るる義平を貯ひ刺しきりも小



辛た跨向ふも屈せむ。死しく忠義の名を全うす。天晴下即稀め。健気者ふも感せぬ者もなかりき。

悪源太義平伏録條

難波次郎経遠と芦部が往進を度り。天晴悪源太を生捕莫天の高名を顕し。六波羅殿の檢賞小頼らんとかりひり。義平の勇壮小辟易し。多くの兵士を損せし。當り敵を討池し。清盛が怒ふ。面目を失ひ。さあふ。日未経遠が出頭兵を胸悪く。みかひ居る。鞞後指をさす。経遠こそ王君の覺と死す。万緒我修兵ととれど。人の義平を捕し。三百余人の多勢を卒し。向ひな。鈍くと逃飯り。可晒さ。寄合。雑笑ひ。経遠大い腹を立。此上六如何も。義平を尋す。出。榻捕り。耻辱を雪ぐ。武士道立。六波羅の額を出。洛中洛外。寺社。糸緒。披露。究強の即黨。廿余人。肌。小具。足を堅め。せり。

矢打物を被せ。前後をく。せ。毎日洛中洛外。官寺。小指。心。小天晴。義平。成生捕せむ。と祈誓し。樹林敷。産。其余人の隠。分。所。八眼を賦。目。を。首。く。專。義平。が。行。法。を。尋。り。多。小。其。二。心。や。徴。し。多。亦。義平。が。連。や。盡。り。多。二。日。例。の。く。即。黨。を。引。連。り。江。列。石。山。寺。糸。緒。し。夫。より。奥。の。明。神。踏。し。と。路。を。急。ぐ。所。小。右。手。の。方。一。町。を。り。引。入。り。杜。の。裡。より。崔。十。六。七。羽。を。ら。れ。強。く。ま。と。多。湖。の。方。極。行。り。経。遠。眺。と。目。を。付。其。方。を。守。り。く。即。黨。小。云。多。と。兵。書。小。飯。丁。連。を。乱。せ。其。野。必。と。敵。の。伏。兵。あり。と。し。る。本。文。あり。今。乃。崔。の。起。る。何。も。心。得。む。何。さ。異。死。者。の。隠。伏。ふ。と。い。ま。試。小。杜。の。中。遠。矢。を。射。込。り。人。よ。と。下。知。と。き。即。黨。も。亦。例。の。應。忽。人。が。僻。用。し。空。矢。射。さ。し。る。も。口。乃。裡。小。は。や。た。多。主。命。黙。止。が。く。十。四。五。人。進。と。進。り。立。並。ぶ。杜。の。内。を。的。的。指。取。引。結。散。々。小。射。多。小。経。遠。が。案。小。違。つ。と。悪。源。太。義。平。八。社。内。が。方。と。切。



拔しとり所々不立忍く夜毎小六波羅の辺りを徘徊し清盛又子を狙ひ  
 其後と敵の用心弥厳し番卒以前小信しく非常を警りる厳重  
 なる本意を達せんと能く斯く急小狙ひたり先野間の内海へも  
 越長田又子を討東國へ下り謀を回さんと都を去る當所まき来り  
 多るが浪々の身う悲しき六波羅食を快くもする能はれを身心も小倦勞  
 き頼り小眠り萌し多るふより此杜の中へ今一睡の夢を結び多るふかりひ  
 ようと乱箭飛きまきり寐入し身小五筋や射付られ大にやうた創起ふ  
 小猶志むく敵箭射きされぬ扱早敵小圍まれ多るも思ひ今八是かきと  
 と矢筈を搜り捨例う石切を抜挿し躍り出雷うたれ声を怒り何奴  
 たりと名刺けむ寐込を窺ひ遠矢小射多るどぞ義平が太刀の金味  
 ともなしく飛鳥のしく狂きまきり経遠刀ふより大に悦び扱こと日來  
 小義平殿と通付るハ寸ハ只射取ると指揮とる即黨いも義平と

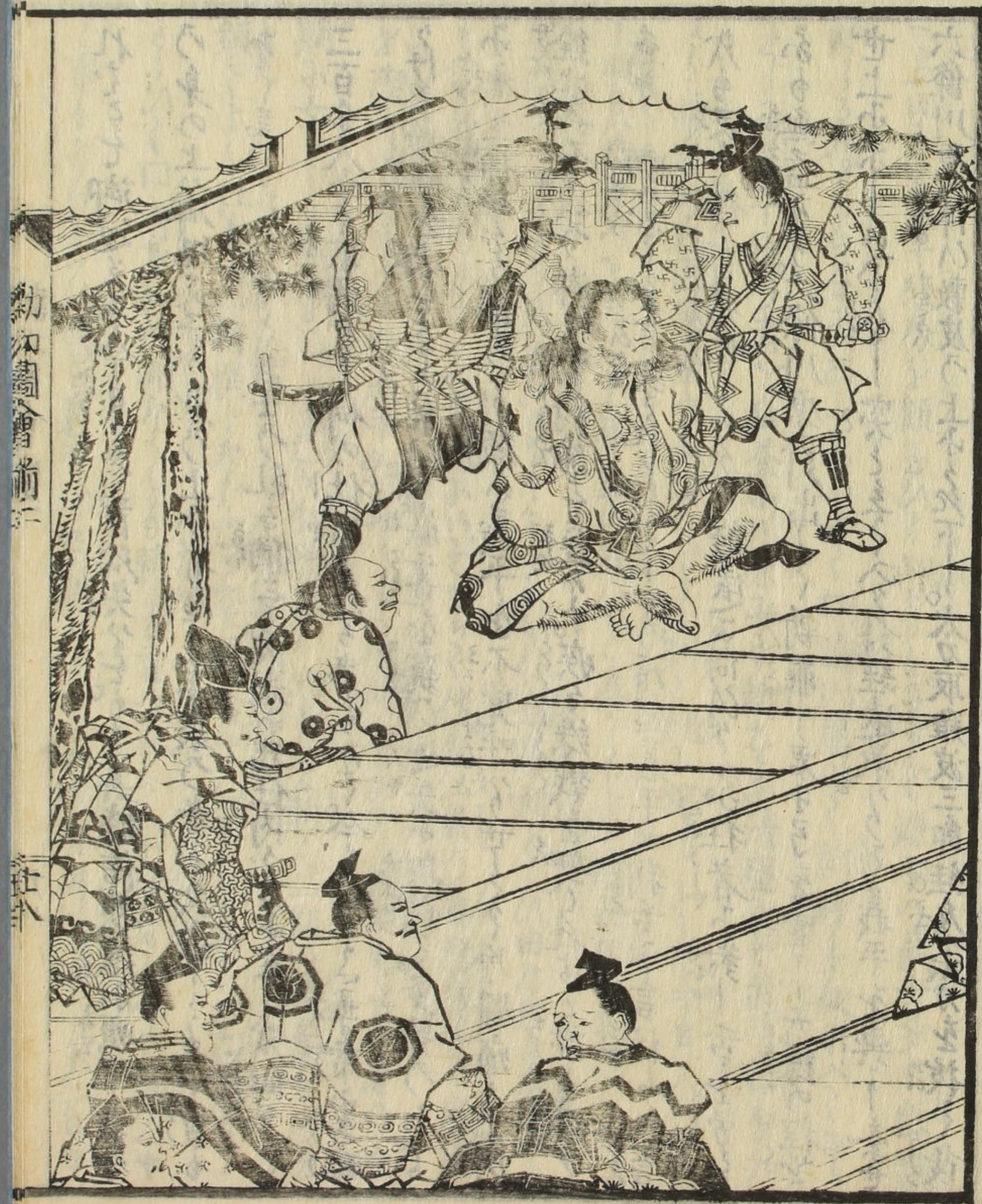
亦四五筋の矢を射付られしるれども猶是を物しませ阿修羅王乃怒  
 を頭り當る公幸ひ小切と落と経遠が手乃者言公慄し足もなく敗  
 走と経遠大に怒り義平假令鬼神たりもあれ程矢海負り上何程  
 の更あらし列包く生捕まれし身を操ぐ下知とふあぞ即堂いも是  
 小属され得物を取る八方より襲ひかゝる義平苦痛を忍び右小當り  
 左小亦亦七八人を斬り落さるれども其身金石なりがれば以前ハ矢疵  
 の上小又多く太刀疵を肩今ハ腕腰眼暈敵の尸小躓く兎前小撞と  
 倒る處を難波が手乃者得たりと我先小落重り終小繩をぞ掛り  
 多る経遠勇を悦び痛手の為小氣絶せし義平を馬小く死ませ操り採  
 る都へ飯り六波羅へ曳行と庭上小あつる難波二即経遠今日石山の辺小  
 天ノ鬼神と称せむい御曹子義平殿を生捕り奈まりと高き小



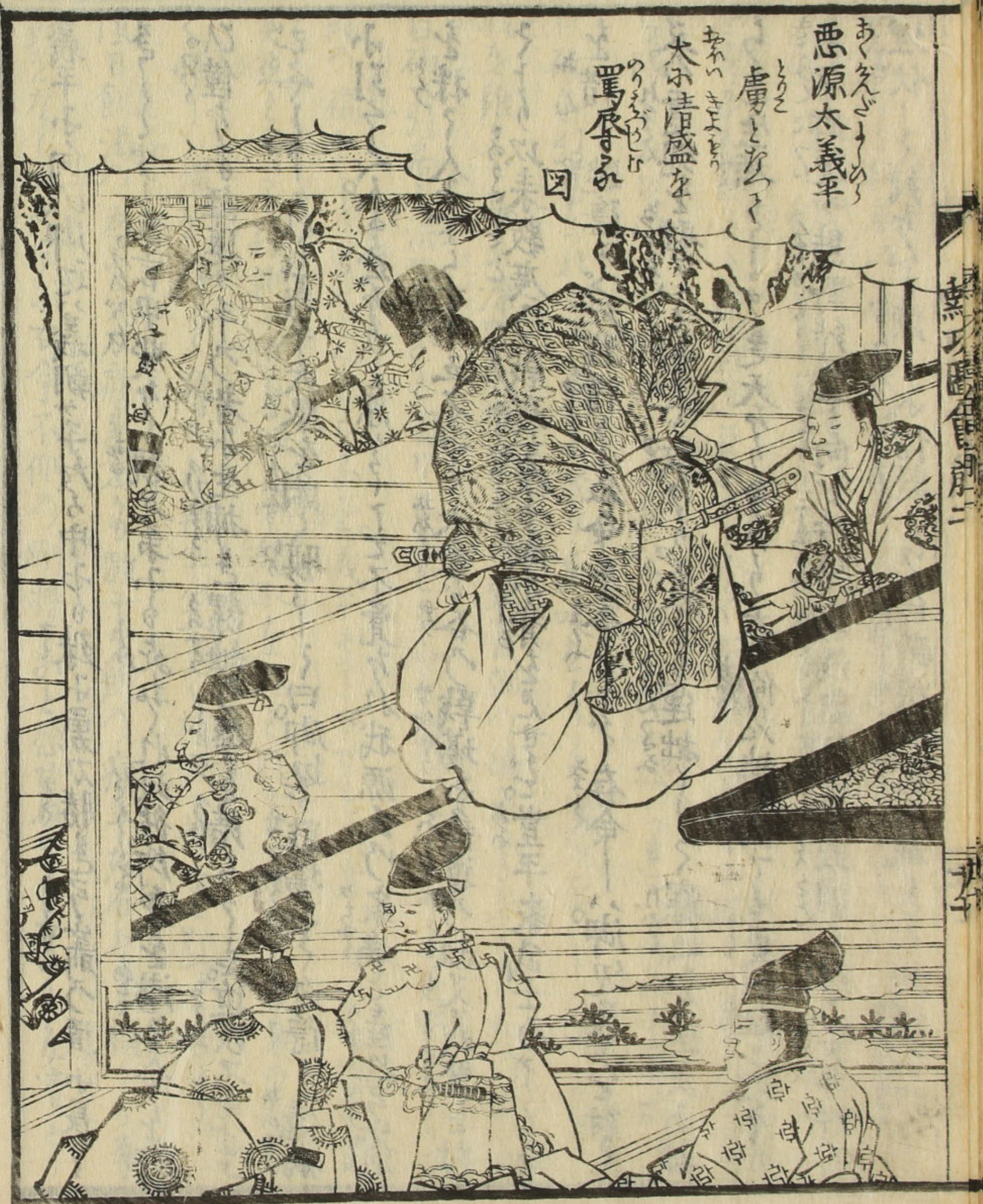
呼りたり執奏の武士大いおあつた。急だ斯と言上りたる。清盛夢うと  
 許悦びはく。動死出く庭上を入るふ。紛辱くもなれ悪源太朱お染る庭  
 小曳居らまきり。清盛近臣お命し。葉湯を義平お服さしめられむ。忽  
 ち眼を同死辺りを睨廻さふ。身お千筋の繩お搦らま。波羅の廳前  
 白破お引居られれど。大い怒り齒咬をへく。繩取をへく。睨み已ハ  
 我を誰し。かり源家の棟梁左馬頭義朝の嫡子。る者を下郎日前お  
 白破引居る法やあふと。罰りもどまぬ。繩取大いおあつた四五人りて  
 繩の端をしり曳居し。とまを。義平曳くもせど其者どもを曳摺さく。つ  
 突然と歩く様側お近着振及く。繩取を吃と睨み。繩取も身の毛豎  
 く。怖く繩を放し。蹲りぬ。義平お其す。様側推上む。びつと座し。み  
 頃日飢渴の為小気力疲き。まも數十ヶ所痛手残肩をく。猶くる卒  
 動をな。あふ。実小古今不測の剛將ふと感ぜぬ者もなうり。清とり

義平小向ひ。御辺の義朝の子たる中お。殊小勇力勝ま。弓箭の道小長せ。ま  
 じし。言甲斐なく親兄弟も死なれ。此彼所身を潜く。命を貯  
 ひ。僅かお経遠が手乃者小生捕ま。縲紲の辱を請らう。近頃不覚多  
 ぶ。やしやれど。義平大眼を睨。曰。御辺が戰場や。近隠る。億病  
 小引ら。人もお。思。不覚われ。我源氏の家嫡と産れ。弓箭  
 を株。人お下らす。十五才や。大倉谷の戰場お無道の叔父義賢を討  
 たり。以来數度乃戰場一度も敵お背を見せど。豈平家武士乃。命  
 を惜く。逃隱るべ。我惜く。命を今日ま。存命。御辺父子と討  
 又乃靈魂を慰んと。お。故。運拙く。寐を遠矢小射  
 ら。生捕ま。是天かり命わり。天小仰。地小俯。更小耻。処  
 去年御辺が熊野結乃下向を待。結湯淺藤代。取圍。討。安部野お  
 理伏。討。練。信頼。白痴。漢酒色小溺。我練。頭。





勅使會前二



あぐさどしめ  
悪源太義平  
とらこ  
廣とらこ  
あらいきよとら  
大木清盛を  
つらふひ  
罵辱ふ  
凶

勅使會前二

廿



れをこそ御辺又子今日もく首成失つと。其時信頼練小頃。我今  
 の身の上御辺又子。身の上小有座。平家乃者ども上下とも小勇も  
 かく義もかく増く。武士の礼も猶き。先小我仕内。方小在。我仰せ。く  
 三百余人。取囲を。何の仕出。たる事。あな。今日も。尋常小名。称  
 うけ。雄雄を決。と。能く。森を窺ひ。遠矢。射伏。多勢。うち。ら  
 小漸生捕。猶き。顔小義平。を不覚。呼り。せ。片腹痛。さ。所  
 詮比真不義。御辺。と。討論。と。益。疾々。殊戮。を加。られ。此。も。恐。ろ  
 色。朝笑。を。言。及。され。あ。の。清盛。義平。が。利。言。小。言。伏。られ。言  
 然。も。及。得。む。赤面。を。経。遠。小。向。ひ。狂。者。小。對。一。舌。を。旁。と  
 る。も。無。益。なり。六條川原。引出。斬。罪。一。君。小。弓。を。當。一。天。殊。の。程。と  
 世上。示。し。令。一。突。と。ま。へ。の。れ。経。遠。承。り。義。平。を。與。り。ま。せ  
 六條川原。伴。以。敷。皮。上。小。死。下。一。太。刀。取。難。波。三。郎。經。房。太。刀。を。拔。く。後

へ。立。回。る。小。義。平。經。房。を。顧。み。仰。せ。是。も。源。平。乃。武。士。多。く。殊。戮  
 せ。る。れ。白。昼。小。西。山。東。山。小。切。適。川。原。小。斬。時。と。夜。小。入。り。き。り  
 ま。り。小。義。平。程。乃。者。と。白。昼。小。川。原。小。斬。と。清。盛。と。武。乃。情。を。知  
 ら。癡。者。な。れ。因果。小。車。乃。兩。輪。乃。糾。る。繩。小。似。り。と。や。今日。人。の。身。の  
 上。明。日。小。我。身。乃。上。か。る。と。平。家。の。泯。心。と。遠。く。汝。衿。小。紀。一。お。た。く。我。一  
 言。の。空。一。く。さ。る。我。思。ひ。合。と。や。され。れ。經。房。嘲。り。由。が。れ。我。宣。ふ  
 の。ろ。小。諸。人。乃。乃。る。未。練。小。い。ど。せ。ら。後。生。小。果。乃。為。拵。名。一。家。期  
 を。澳。く。一。あ。く。と。ぬ。義。平。勃。然。と。亦。仰。せ。大。丈。丈。と。者。乃。末  
 期。小。女。乃。念。仏。と。念。た。り。己。が。公。際。小。我。首。を。斬。二。期。の。暗。業。と。心。を  
 鎮。く。と。仕。ま。万。一。斬。損。ト。己。が。髮。頰。喰。付。と。を。經。房。乃。を。  
 日。ひ。く。曰。御。身。如。何。剛。なり。と。斬。首。乃。争。り。人。小。喰。付。む。能。く。や  
 と。事。も。な。け。小。放。を。義。平。弥。怒。激。あり。一。や。喰。付。得。ざ。と。百。日



を過まこと雷神とかりく曳裂捨る。多々善斬よと喘と睨む。一  
ざしその怖ろけり。これを経房毛髪堅く覺るれども心弱く叶りと太  
刀振上曳と呼掛声くも小首前小ぞ落小多。惜登一項羽樊會が勇  
を欺死孫子吳子智術を胸小隠せ。名將不幸徴運あく六條河  
原の露と消ぬ。是俾か。叔又義賢を射。惡報ととあれ。

義平靈孤殺難波三郎條

去程小平清盛と朝敵を亡。震襟を安ん。まゝ功大なり。君殊  
感。思召。永曆元年正三位小叔。參議小拜。日二年右衛門督檢非違使  
別當權中納言小至り。續。仁安元年内大臣小任。日二年小從二位太政大  
臣小昇進。を左右の大臣を經。此位小至。九條桐國の外其先  
蹤。刺。兵杖を賜。輦車小乘。宮中出入。を免。抑。此太  
政大臣の官。八人皇三十九代天智天皇十年正月五日。大伴皇子始。

此官を免。一天の安危身小由。萬機乃理。乱掌小あ。重職を。其  
量備り。王佐の役才。ハ。勅行。極官少。其様小當。人多死時  
を此官小限。則。故小則。則。官。も。チ。様の大官小昇。こ  
宿世の福力の。と。知。や。と。目。を。を。く。美。チ。ね。人。も。チ。且。清盛く官  
位昇進。身。乃。采。花。を。究。の。を。チ。一。族。チ。三。卿。九。卿。小。列。を。其。一。二。と。云  
。長男重盛。内大臣。左大将。小任。二男宗盛。中納言。右大将。三男知盛。を  
三位中將。重盛の男。維盛。を。西。位。少。將。其。外。一。門。類。葉。の。官。位。昇。進。を。授。奉。を  
。小。違。あ。と。就。中。清。盛。の。二。女。德。子。ハ。高。倉。院。の。中。宮。小。立。也。斯。の。く  
。平。家。一。家。の。昌。隆。旭。乃。昇。が。く。一。族。の。領。も。る。國。三。七。ヶ。國。既。小。日。本  
。乃。手。小。過。く。され。清盛身。乃。采。曜。小。金。を。果。る。驕。奢。の。心。増。長。く。王  
。位。を。輕。く。國。柄。を。專。小。大小の政事。皆。清盛。が。肺。肝。より。出。さ。る。を。な。く  
。已。が。心。小。合。と。切。が。死。小。賞。を。加。心。小。違。と。忠。あ。と。の。四。封。を。其。暴。逆。ひ



小仁王恭董卓が上小出たり。然る小仁安二年の春清盛五十一歳とりふ  
 一重死病小臥くれむ一族の徒大いれ死。諸医小命し。医療手成  
 盡せむ。墓々くゆなるる。清盛心中小緒佛を念。疾病悉除の為  
 小く。俄小入道し。名成淨海と改む。此功德あやま。かの病痾忽小愈  
 くと再び壯建の身となり。奇特を刀をふる。入道先非を改免王  
 法を崇め佛法小心を傾く。愈死小。さるる。豺狼の心益増長。奢移  
 月成越。長大小なり。情ありひ。我今官位帝王小續死富貴心。伏  
 たり。と。の。太上老君。不死の法を得。終小。泉下の人となり。ふ  
 め。さ。六百世小我佳名を残。小。不如。も人の。難。た。成。さ。ハ  
 其。詮。今。の。都。成。撰。及。福。原。小。一。萬。代。不。易。の。帝。城。と。な。ま。と  
 心中小思。れ。々。を。仁安二年七月撰。及。下。り。表。ハ。避暑。の。為。と。披。露。一。茲  
 彼所を巡見。一。々。小。其。年。ハ。残。暑。皓。一。り。々。を。と。布。引。の。滝。の。下。小

酒宴を催し。暑を避。て。其。昔。命。と。ふ。ふ。ど。二。門。即。後。是。と。丁。小。自。あ。を  
 游。ふ。と。と。我。あ。く。と。供。を。願。ふ。其。中。小。難。波。三。郎。経。房。と。先。頃。悪。源。太  
 義平の首を斬る折節。と。斬。上。悪。く。斬。を。雷。と。な。つ。と。抵。殺。し。仰。せ。し  
 眼。さ。し。世。小。怖。し。覺。一。平。日。月。前。小。残。り。と。忘。れ。ど。わ。の。居。々。が。程。ふ。る。小  
 隨。の。り。り。心。き。々。小。頃。日。夢。の。裡。小。義。平。甲。冑。の。姿。を。現。ま。経。房。と  
 一。と。白。眼。汝。昔。日。我。最。期。小。の。は。ら。幻。を。忘。ま。々。先。年。配。所。小。崩  
 御。あ。ひ。一。續。岐。院。御。願。の。と。今。と。修。羅。の。上。將。と。なり。緒。の。二。軍。成。と。く  
 司。り。小。我。も。御。春。屬。の。雷。神。と。なり。院。曾。と。勅。し。小。先。小。信。頼。心  
 を。矯。ら。せ。と。信。西。又。子。を。討。せ。ね。頼。と。清。盛。が。肺。肝。小。合。へ。と。上。皇。と。困  
 め。今。上。小。幸。れ。月。見。せ。ま。り。終。小。重。盛。が。命。成。縮。免。清。盛。を。燒。殺。し。重  
 小。恨。を。報。せ。し。宣。り。先。其。手。始。小。我。汝。を。蹴。殺。し。小。と。中。さ。る。肉。と。り。も  
 顔。色。次。弟。小。赤。く。なり。眼。の。光。星。の。と。成。れ。二。郎。身。の。毛。堅。ま。呼。と。叫



侍りておのりて夢覺り。是よりする夢中おのりて義平の面影幻り如く月前お通り忘る。能く経房大の心を困りたる流石弓箭の身の友朋輩おのりて夢見たり。結里得と潜小緒寺緒社小祈願と筆先靈の祟を除く。念死加持祈禱をよめり。されば今般清盛布引の滝遊覧の催し。供小従ふ。何とや。心小くをされ病氣と稱し。詳退し。日來経房が莫逆の友高梨十郎。少者病を紡き。て経房が身を及ぶ。更小所勞の体も及ぶ。されを経り。向ら。御辺疾病有。今般の御供を辞し。中さる。小より某病を紡。て。来まる。更。其体及ぶ。何とや。怖畏のあり。依。身を慎。を。あ。を。殘念。今般の御供を辞退せり。夢中おのりて。預め。結。高梨。は。御邊

小似合さる。億病未練。心。夢。原。無。出。取。金剛般。若。如。夢。幻。泡。影。と。鏡。又。禪。家。の。滅。小。癡。人。面。前。不。可。説。夢。も。縋。り。夢。成。り。吉。凶。禍。福。を。論。む。婦。女。子。の。惑。ひ。辻。上。者。の。常。終。かり。大丈夫何ぞ是。恐。る。の。理。あ。や。元。来。思。夢。心。小。お。り。其。為。吐。小。夢。又。年。月。を。超。夢。を。て。維。が。身。小。有。り。他。の。物。の。夢。現。小。あ。ら。ど。只。心。より。種。の。形。を。生。む。り。御。邊。此。事。を。深。く。包。も。已。小。天。知。地。知。御。邊。と。某。と。知。所。經。四。知。あ。れ。後。日。小。世。小。漏。る。經。房。を。一。夢。と。恐。れ。く。主。君。の。供。小。後。ま。り。と。汝。太。せ。れ。多。年。の。勇。名。一。時。小。消。億。病。未。練。汚。名。を。彼。り。門。類。属。の。面。小。涙。と。畢。竟。今。般。の。隨。從。を。遊。真。を。六。辞。退。有。し。も。苦。し。く。義。も。あ。ら。敵。徒。退。治。の。出。陣。を。如何。せ。り。や。し。理。を。推。言。を。盡。し。練。多。を。經。房。も。今。と。辞。を。小。道。を。心。中。に。危。を。あ。ら。面。小。氣。伏。の。色。を。日。織。小。足。下。の。練。小。あ。ら。胸。の。雲。霧。晴。り



死ふよと綸し玉りり。実我なかりしを死夢小迷ひと悪なり死  
 しく遠小舟を定先高梨しくり清盛が面前(出所)芳平癒り。披露  
 しく隨逐の敷ふと入りりる。去程小七月七日平相國清盛二門類葉を引  
 縹布引の瀑布の辺小宴席を設るの妓婦白拍子小歌舞吹簫を奏さ  
 甘美酒の泉を漉(佳者)の圃を築た酒宴を促し盃の献酬りり。扱  
 人々稍酔小棄ど頭を揚り眺望をふ名小あり。滝の水清く滔々と漲り落  
 ふさぬさながら數十端の白布を引さふりり。布引と宜も呼りり。步  
 真し肌涼し死洞風小衣毛の汗をそひ。滝の流の盃を浮りり。詩歌小思を  
 述べりもあまの膝押是角觥小笑ひ真とふあり。方小是佳辰今月歡樂  
 極萬歳千秋樂未半し。媚會りしとあさり折し。あれ俄は。一糸の  
 陰雲滝の上小湧出り。かえりり。須臾小黒雲一天小満つ。心は四方  
 大黒暗となり。逆風吹起り。巨木を倒し。大雨盆を傾り。降出り。山

谷震動とらと比しく霹靂震ひ轟た電光遠向なく飛閃あど。清盛がわめ一門  
 の上下真を醒し。怖惑ひ皿盤を収る小違なり。周障ふり。我先わと逃  
 走る。就中難波三郎と殊小以り。畏後たされ。夢乃ト小違々。此珍事  
 小遇し。よさ。れ神カ勇者小敵。ととり古語もあり。譬ひ義平乃惡靈也  
 しく。是幽冥の一鬼の。武徳をり。當む。退り。心小心を。房。太  
 刀小手。け。空を睨。眼小遮る者あり。バ切。落さ。身構。志。鳴  
 呼。れ。争。雷神小敵。た。忽ち。般石を。襲。墮。鳴。雷。あ  
 生。憐。む。一。経。房。五。躰。微。塵。小。碎。り。失。り。然。る。小。雷。神。ハ。猶。清。盛。入。道。を  
 中。批。殺。ん。と。や。團。の。突。流。星。乃。追。蒐。一。が。清。盛。と。此。日。弘。法。大。師。自  
 筆。乃。守。瓜。肌。小。挂。れ。其。德。小。や。敢。く。雷。神。近。付。し。能。く。空。一。虚。空。上  
 リ。々。実。義。平。々。寅。期。乃。一。句。空。一。々。経。房。を。批。殺。一。々。を。怖。一。々。々。

木曾義仲勲切圖會前篇卷之二畢  
 世三



